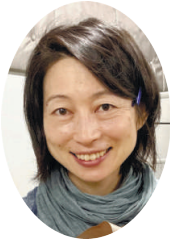


ずいそう

アパートを出て、自然保護区まで散歩に出かけた。だが森林浴のつもりで出かけたのに、いざ森に足を踏み入れると、鳥の声を楽しむより前に、見えない草むらの奥の気配を怖いと感じた。ああ、私は外国にいるのだ。



昨年、シェイクスピアの生誕の地、ストラトフォード・アポン・エイボンを巡った。シェイクスピアの生家から、妻のアン・ハサウェイの美家までは歩く約40分。木立の中を好きな人に会いに行くと、きつと鳥の声や葉擦れの音までが何よりも美しい音楽に聞こえた。観光バスの音声解説で聞いた話が心に引っかかった。昔、この辺りには

シェイクスピアの見ていた樫の木

五戸真理枝 (演出家)

広大な巨木の森が広がっていた。1588年、シェイクスピアが24歳の頃、アルマダの海戦が大きなきつかけとなり、森は切り開かれていった。樫の古木は軍艦になった。バスの窓の外には、見渡す限りの牧草地が広がっていた。

今年再びイギリスに来た。まず、樫の巨木を見たいと思った。しばらく歩いて、大きな樫の木を見つけた。ス



ラファのポシエットはアクセサリ感覚で使いたい!

同色系同士を重ねて上品に

晴れ間に買った物ア

サマーニットはゆったりめがいいな

うちは、それぞれの部屋が襖で仕切られている古い家だ。今、目で追って数えてみたら、なんと十枚もの襖がはまっていた！壁でもありドアでもある襖、6月に入

ほんのり透かして

夏の散らかしや汚れもまあまあ見逃せるけれど、それらを目に入れてつづ仕事したり食事するのなんだかねえ、と竹のすだれを仕切り代わりかけてみた。一気に雰囲気夏仕様に様変わりする楽しさよ。すだれは風の通りを妨げないし、見たくないものをぼやかせてくれるし、いいことづくめだわ。



麻糸で編まれた透け感のあるサマーセーターはローゲージに近く少々厚みはあるけれど、まさしくすだれだったのである。ブラトップに重ね着ると風の通りがいい。脇からちよつとはみだしたぜい肉やたるみもぼかしてくれるってホントすだれ効果といつしょ！カジュアルな初夏のおしゃれにちよつといいなと思う。もう一つ最近手に入れたもの、それはラファのポシエット。スマホと財布、眼鏡入れ

たらいつぱいのサイズだけれど、透かし編みが涼やかで、今の季節ならではの持ちもの！というところが気に入った。さて、これから梅雨だわね。そして過ぎたらすぐ真夏に！湿度対策や猛暑(多分ね)対策とていかねばと思う。すだれや透かし編みは昔からある生活の知恵だろう。受け継がれてきたささいな知恵が初夏の暮らしを大いに彩り、またおしゃれの気力も衰えさせない。ほんのり透かしの効果は侮れないわ。

(隔月掲載)

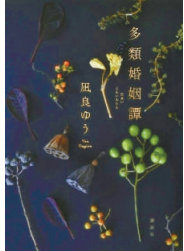
BOOK

「結婚」をキーワードにした5つの連作短編集。家族の期待にこたえて恋人との帰省を決意した女性や、結婚前に「性差を越え、個として分かり合えるか」

どの現実にも直面した男女。どの関係性にもシエンダー、地方と都会、経済格差などが影を落とす。無意識にとらわれている社会通念や正しさがいかに傲慢か。心の奥をのぞかれているようなヒリヒリとした感覚。私たちは結婚や恋愛に何を求めているのだろうか。読後も考え続けている。

月刊誌『学習の友』での連載に加筆・修正した本書。憲法の成り立ちという世界的な話から、日本国憲法の意義と重要性について、「そもそも」の原

点から総合的に学び直す最新の学習テキスト。突然の衆院解散と総選挙の結果、自民党の圧勝によって、憲法を学び直すことの必要性はますます高まっている。労組や運動家、憲法に愛着をもつ人びとによるコラム「私の好きな憲法条文」も憲法を身近に引き寄せる助けに。



講談社 1900円+税



学習の友社 2000円+税

代田知子さんおすすめの子どもの本 大人もぜひ!



いもうとのデイジー
男の子だと思っていたきみを、女の子としてうけいれるまで
エイドリヤ・カールソン 作
ライナス・クルチ 絵
松浦直美 訳
(小学校低学年~)



ぼくのいうことを、きかないぼく
柴野理奈子 作
中田いくみ 絵
トゥレット当事者会 監修
(小学校高学年~)



あってって!
スギヤマカナヨ 作
(幼児~)

最初は、作者の実話をもとにした絵本『いもうとのデイジー 男の子だと思っていたきみを、女の子としてうけいれるまで』。小学校に入る少し前に、「わたし、女の子だよ」と勇気をもって伝えた「妹」のお話だ。そう告げられた兄の視点から、トランスジェンダーの子どもと家族がどうかかわり、どう受け入れたのかを描く。兄と「妹」の大切な日々をつづる絵が温かい。

次は、『ぼくのいうことを、きかないぼく』。小学6年生の駿は、自分がトゥレット症だとは知らず、体や声が自分の意思に反して勝手に動いてしまう症状に苦しんでいる。親や友だちから、変な動きをするなどと言われると、ふざけたふりをしてごまかしていた。駿を救ったのは、「おかしい」「わかりたい

と考えた友だちだった。「知らない」はときに暴力になり、「知ろうとすること」が共に生きる世界を広げる。難病を抱えた少年の葛藤と友情のきずなをテンポよく描く。

最後は、多様な子どもたちが声を出し合って楽しめる絵本『あってって!』。冒頭に「あ」の文字。これが日本語のひらがなの「あ」と説明してから、お楽しみが始まるしくみだ。「おおきく『あ』ってって」、「ちいさく『あ』ってって」、泣きながら「あ」、怒って「あ」。さあ、言えるかな? 表情豊かな絵をまねて言うと、どんどん楽しくなる。外国籍の子ども、異年齢でも、みんなでインクルーシブな読み聞かせを楽しむことができる。まずは親子でやってみよう。

編集部から 次世代国会行動でペンライトが光る瞬間が。国会内でもライトが光る光景は圧巻。未来で後悔し... たくないと思いつながった一人、一人と、戦争とめる・憲法まもるをたたかいてきた前に。